

市民ネットワークによる カスミサンショウウオの保護

齊藤 修



さいとう・おさむ 長浜バイオ大学研究推進機構長／長浜バイオ大学教授、動物分子生物学研究室／理学博士(東京大学)
▶東京大学大学院理学研究科博士課程修了、パーモント大学(米国)医学部、国立精神・神経センター神経研究所、東京都神経科学総合研究所の研究員を歴任
【専門分野】分子生物学、神経生物学、生化学

私たちは、2005年の春、長浜バイオ大学に近接する低山の麓の特定の側溝で、多数の小型サンショウウオの卵を発見した。おそらく山から親サンショウウオが下りて来て産卵が行われるものと考えられる。又、このサンショウウオは、身体的特徴からカスミサンショウウオと思われた。多くのサンショウウオは、様々な地域で土地開発などが原因となり、絶滅が危惧される種類や地域個体群が多い。この中で、カスミサンショウウオは、滋賀県版レッドリストで3番目に絶滅が危惧される希少種である。確かに自然が豊かな滋賀県長浜市であっても、このカスミサンショウウオ集団は貴重な存在と考えられた。その上、2009年の5月に繁殖水路の崩壊と雨不足により水枯れが起り、5000匹いたと思われる幼生がほぼ死滅してしまった。今後の近隣開発も想定され、このサンショウウオ集団は放置すると極めて危険な状況にあると考えられた。

そこで、サンショウウオ保護に賛同頂ける地元自治会や教育・医療・事業関係者、更には行政関係の方々に集まって頂き、「田村山生き物ネットワーク」を2010年11月に設立した。そして、このサンショウウオを保護し次世代に残していく為に、まずは水枯れの緊急対策として、近隣の方々による1トン近い水の輸送と水路への注水、さらには補助金を獲得しての井戸の設置、水漏れ防止の水路補修作業などを行ってきた。しかし、根本的な解決の為に、やはり安定した保護池の造成が必要であり、現在、模索を続けている。

また、保全策を適切に進める為に、この集団の生態と遺伝系統を明らかにする研究も進めている。これまでに、最大産卵数120個の比較的大きな集団であること、幼生は半年近く水路で成長すること、水を供給するだけで多くの幼生を救える事などが分かってきた。また、遺伝子解析では、少なくとも滋賀県内には大きく5系統のカスミサンショウウオが生息し、その一系統の中でもこの集団は特徴的な存在であることが分かってきた。

さらに、私たちのネットワークでは、活動方策の研究、地域の方々への活動の紹介、さらには保護活動の拡大を目指して、「カスミサンショウウオを守ろう！学習会」を毎年開催してきた。これまでに、本学に加え、地元南小学校、西中学校、虎姫高校、米原高校でのサンショウウオの保護活動と研究が報告され、また県外での保護活動も紹介頂いている。幸い、この学習会が発端になり、県内の各高校だけでなく民間会社にも保護活動の輪が広がりつつある。今後も地元地域の方々の協力を得て、ネットワークを強固にしながら活動を進めていく予定である。